

教 師 ノ ー ト

日付	2019年 9月22日
単元	使徒の働き・2
テーマ	伝道と神の助け
タイトル	エペソでの伝道
テキスト	使徒 19:1-41
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 使徒 19:20
AG 日曜学校教案参照箇所	

□導入

興味を起す質問をしましょう

例:おともだちにイエスさまの話をして笑われるのは、悲しいですね。パウロはどうだったのでしょうか?パウロは、船と徒歩で外国に出て行って、どの町でも福音を伝えました。今日は、3回目の伝道旅行で行ったエペソという町で起こったことを見ていきます。

□ポイント1 パウロは力強くエペソで伝道をしました(1-20節)

ここでは、騒動が起こる以前のエペソ伝道のようすを簡潔に伝えます。福音が驚くほど広がり、勢いを増していくようすをダイナミックに語りましょう。

- 1)バプテスマのヨハネのミニストリーによって、悔い改めたユダヤ人が、教会に集っていました。彼らはクリスチャンでしたが、イエスを信じる信仰の面で不明瞭な点があったので、パウロはそれを補強しました。彼らはイエスの名による洗礼を受けました。パウロが手を置くと、彼らは聖霊のバプテスマを受け、そのしるしとして異言を語りました。
- 2)パウロはエペソに約2年間滞在して伝道しました。初めユダヤ人の会堂で教えました。反対にあい、ツラノの講堂(ツラノは人物名、講堂は人々が集まって講義をきく場)で語り続けました。2年間毎日語ったので、ユダヤ人もギリシャ人も福音を聞きました。
- 3)神は、パウロを通して奇蹟をあらわされました。パウロの身につけているもので、病が癒され、悪霊が追い出されました。ある魔よけ祈祷師の失敗で、パウロが伝えている神こそが本物だということが証明されました。それらを通して、エペソ全体に恐れが生じ、信仰と悔い改めが起こってきました。魔術を行っていた人たちも、高価な書物を大量に焼き捨てるほど、明確に悔い改めました。例えば、現代の日本で、テレビに出ている占い師が、「イエスさまを信じたので、この番組は終わりです」と言うくらいの影響を与えたと想像するとよいかもかもしれません。聖霊は、パウロの伝道をそれほど力強く助けられたのです。

□ポイント2 銀細工人デメテリオが伝道に反対して騒動を起しました(23-28節)

銀細工人デメテリオの商売が困難になったということは、それだけパウロの伝道が、このエペソで強い影響をもたらしたこと(伝道の成功)を意味しています。パウロが「手で作った物など神ではない」と言って、イエスを宣べ伝え、信じる人が増えたので、エペソの伝統的な女神アルテミスの神殿の模型が、売れなくなって困っているというのです。神殿を参拝する人や見に来た人に、神殿を模った銀細工(大きく豪華なものから、小さいものまで)を売っていたのでしょう。デメテリオは、自分たちの商売がダメにならないように、同業

者などを集め、必死で扇動しました。

□ポイント3 町中がたいへんな騒ぎになりましたが、神さまは助けを備えてくださいました(29-41節)

銀細工の職人たちは怒り、叫び声を上げて抗議し始めました。しかし、彼らのデモ行動は、当事者だけでなく、町中の人々を巻き込む大騒ぎへと発展していきました。そして、パウロの同行者であるマケドニヤ人ガイオとアリストアルコを捕え、一団となって劇場へなだれ込みました。パウロはそれを知って、集団の中に入っていくつもりでしたが、弟子たちに止められました。アジア州の高官たちも、パウロに友好的だったようで、彼に劇場に入らないように伝えました。集會は大混乱で、大多数の者はなぜ集まったかわからないという状態でした。こうなると、事態を收拾することは、不可能でした。

町の書記役が、群集を治めるために登場します。彼はきっぱりと、パウロたちは訴えられるような罪は何もしていない、と言いました。もし必要なら正当な手段で訴えるべきであり、むしろ、今彼らがやっていること自体が公的に有罪となると指摘しました。町の書記役は、エペソでは最も有力な職務だったと考えられています。ですから、そこに駐在するローマの地方総督とも近い関係にあったはずですが、その立場から発せられる、賢明な論理には、非常な説得力がありました。

☞「劇場」は、ギリシヤ都市の公共施設。エペソの劇場は、現存する古代劇場の最大のもので、2万5千人を収容できる野外劇場。演劇だけでなく、政治的集會や交わりの場にもなっていました(いのちのことは社・聖書の達人「新聖書辞典」より、同・写真も参照)。

☞33-34節でユダヤ人が問題になっています。これは、集會が混乱していたため、反パウロ運動が、いつの間にか反ユダヤ人運動となったためです。ユダヤ人はアレキサンデルに代表で弁明させようとしたが、事態は混乱を極めるばかりでした。

暗唱聖句を読み上げます

□結論 パウロは宣教活動の中で、たくさんの困難にあいましたが、神さまに守られて、福音は力強く広がっていきました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

町の役人が助けてくれるとは思ってもよらないことですが、確かにこの混乱を抑える知恵と力をもつのは町の役人だけだったのです。これは、神の助けです。

例1)パウロの宣教は、たいへん勇ましく激しいものでしたので、迫害や困難もたくさん受けました。しかし、だからこそ、神さまのすばらしいみわざを表したり、不思議な力で守られたりすることもたくさん体験することができたのです。(他の宗教に対して批判的・敵対的になる必要はありませんが、)あなたも、恐れないうで、愛をもって、みことばを伝える人になりましょう。困難があるかもしれませんが、それによって、神さまのみわざがあらわされ、神さまが必ず守ってくださることを信じよう!

例2)あなたは、エペソで起こったような世間を揺るがすリバイバルが、あなたの住んでいる地域でも、実際に起こるということを、心から信じていますか?日本では伝道したってどうせ「みことばが驚くほど広まり、ますます力強くなって…」なんてありっこないと、あきらめていませんか? エペソで働かれた聖霊さまが、今あなたの町で働かれます。パウロを助けてくださった聖霊さまが、同様にあなたを助けてくださいます。信仰の枠を大きく広げて、地域のために祈ろう! イエスさまは、みんなを命がけで愛しています。みんなにイエスさまが必要なのです。